

高田 税務署長賞

## 税は命をつなげている

上越市立大潟町中学校 三年

柳澤 優里

私は、生まれてからたくさんのお金を使ってきた。生後四日目に、生死にかかわる手術をしたと聞いているし、六年生の時は、八時間以上もかかる手術をした。他にも数回手術をしたことがある。

手術には、ものすごいお金がかかるそう。がんばって働いてもなかなか払うことのできないくらいのお金が本当にかかるけど、税金を使ってもらえたおかげで、安心して手術が受けられたと母が言っていた。私は、今までの手術には税金が使われていた事を初めて知った。とても驚いたけれど、私はみんなの税金からも助けられていたのだと知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。

他にも、私は補聴器や補聴支援機器も使っていて、それらも購入するときに税金が使われていることを知った。大切にはしているけれど、もっと大切に使っていきたいと思った。

医療や福祉で、税金は手術にかかるお金や、障害者や高齢者を補助するために使われている。国民のみなさんが払っている税で、命が助けられたり、心が救われたりする人がいるのなら、大人になって働き、私が払う税金を使ってほしい。自分が払った税金で誰かの命をつないだり、心を軽くさせたりできていたら、すごくうれしいことだと思う。

一人一つしかない命をつなげることができるのはすばらしいことだと思う。

もちろん税金は医療の他にも教育や社会保障、交通、公共施設などのいろいろなところで使われている。税金は日本の環境をよくしたり、日本を発展させるためだけにあるのではなく、みんなでみんなの命と心を助け合うためにもあるのだと私は思う。

私には夢がある。看護師になることだ。将来絶対に看護師になって、目の前の患者さんも助けたい。でも、近くに行つて助けることが難しい患者さんもいるので、税金で支えることのできる大人になりたい。そして、今までも、またこれからも、補聴器などで税金を使わせてもらっている恩を返していきたいと思う。